

1 学校教育目標										
教育目標	1 広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。 2 感謝の気持ちを持ち、地域や社会に貢献する心と態度を養う。 3 自ら思考し、判断し、責任ある行動のとれる主体的能力、態度を養う。 4 強い使命感和倫理観を持ち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。				 校訓 勤労愛好 報恩感謝 自発自律 ひとづくり&ものづくり 100年へ向けて ～新たな百年の礎づくり～					
	社会人として自発的・自律的に行動できる 1 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術を身に付けている。 2 基本的な生活習慣及び規範意識やマナーを身に付けている。 3 協調性、忍耐力やコミュニケーション能力を身に付けている。 4 自己の能力向上のために努力する姿勢を身に付けている。									
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)										
○生徒による授業評価における授業の分かりやすさでは「よく分かる」(77%)、「分かる」(23%)であった。1学年においては、ともに50%であることから、円滑な学習へと移行できるように「分かる授業」を目指した授業改善に今年度も引き続き取り組み、質の高い授業を維持する。また、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業ができるよう努める。 ○資格取得は、年々向上(一人あたり1.5／年間)していることから、生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな指導を今年度も引き続き行い、「一人あたり年間二つ以上の資格取得」を維持する。 ○全体を通して計画的に進路学習、進路情報提供、キャリア教育等を行い、きめ細かい指導により自らの進路に対する意識の向上を図るとともに、希望進路の実現に向けて自ら行動できる生徒の育成に取り組む。 ○コミュニティースクールの活用を通して、保護者や地域との連携を強化するとともに、定時制教育活動のより一層の周知を図るため、本校ホームページや各種メディア等を活用し、積極的に情報発信を行う。										
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題										
1 凡事徹底 2 規律ある安心安全な学校づくりと危機管理 3 新たな百年の礎づくりに向けた行動										
(1)【学習指導】 ・基礎学力の定着 ・互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究と授業改善 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践 ・ものづくり人材に必要な学力や技術・技能の定着 (2)【生徒指導等】 ・規範意識や他者を思いやる心の醸成及びいじめ等の未然防止 ・心身の健康管理と体力の増進及び交通事故防止 ・組織的・計画的な進路指導及び進路多様化への対応 ・部活動や特別活動の充実 (3)【校務運営等】 ・情報共有の徹底及び根本的、多面的、中長期的視点に立った業務の改善・計画・実行 ・互いを尊重し助け合い、質問や助言が気軽にできる職場環境づくり ・コミュニティースクールの活用と円滑な運営 ・地域、企業、異校種等との積極的な連携及び情報発信 ◎本年度のチャレンジ目標 生徒一人二つ以上の資格取得 全校生徒で 年間99%以上の出席率										
4 自己評価										
5 学校運営協議会委員評価										
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価			
学習指導	生徒一人ひとりが理解しやすい授業づくりに努める。	・年2回の授業評価を実施し、評価結果の分析に基づいて授業改善に取り組む。	授業の内容が「よく分かる」、「分かる」が合わせて 4: 95%以上 3: 85%以上 2: 75%以上 1: 75%未満	4	●前期、後期とも授業内容について95%以上が「よく分かる」、「分かる」の評価で良好である。ただし、後期では授業内容の難易度が高くなり、少し評価が落ちている。 ●体育・実習については前・後期とも100%の評価であった。 ●アンケートの中の意見で授業が分かりやすいという好意的なコメントや、授業の内容の難しさを記述するものもあった。	・授業内容がよく分かるということが高い出席率につながっている。 ・中学校における進路指導との関係も検討する必要がある。 ・特別活動が常に充実している。 ・日々の授業を大切にし、生徒に提供できている。 ・「行きたくなる学校」「居場所のある学校」づくりを継続してほしい。 ・定時制への進学を希望する生徒のために、公開授業の回数を増やしてほしい。 ・見学だけでなく体験ができると、より理解してもらえる。	4			
		・一人当たり年4回の授業公開を実施し、相互に参観することにより授業改善に取り組む。	授業公開実施回数の累計が 4: 65回以上 3: 55～64回 2: 45～54回 1: 45回未満	4	●授業公開は各教員累計100回以上行った。 ●授業公開は、5月と11月に計6日間実施した。 ●5月の授業公開では、特に1年生の保護者が来校した。その後の部会に参加してもらい、教員と意見交換を行った。 ●11月の授業公開では、中学生、保護者、中学校と高校の教員が9名近く見学した。感想の多くは、「良かった」とあった。					
		・生徒の学習理解を深めるため、授業時間の十分な確保を図る。	1単位当たりの授業時間が、半数の科目において 4: 35時間以上 3: 30～34時間 2: 25～29時間 1: 24時間未満	3	●どの科目(3単位、2単位、1単位科目)においても半数以上が、1単位あたり35時間未満であり、時間数が少なめである。 ●行事等で授業が削られる場合もあり、適正な行事日程、授業確保を検討していく必要がある。					
		・デュアル実践の充実を図り、勤労観・職業観の育成に取り組む。	勤労観・職業観の育成に役立ったと答えた生徒が 4: 85%以上 3: 65%～85%未満 2: 45%～65%未満 1: 45%未満	3	●6月と11月に各事業所で計13日間の就労体験を行っている。対象生徒は一学年の3修制生徒(今年度は7名)。昨年度体調不良で後期(11月)の研修を実施できなかった2年生が参加した。 ●研修を受け、自分探し・職業選択の参考になったという報告があった。					
	学習習慣の確立と基礎・基本の習得および定着を図る。	・学習習慣を確立させるため、高い出席率の維持に努める。	出席率が 4: 98%以上 3: 93%～98%未満 2: 88%～93%未満 1: 88%未満	3	●昨年までは、高い出席率を更新してきた。今年度は、特に1年生が、6月の退学までに欠席を続け、現在も1年生の中に登校が難しい生徒がいて出席率を下けている。 ●皆勤の生徒が2名、精勤に近い生徒が数名いる。それにつられて登校する生徒もいてよい影響を与えている。					
		・総合的な学習の時間や特別活動を充実させ、生徒が興味を持って取り組める内容を構築する。	4: 内容が充実し、生徒が意欲的に取り組んだ。出席率95%以上。 3: 内容が整い、生徒が真面目に取り組んだ。出席率85%以上。 2: 内容は整ったが、生徒は積極的に取り組まなかった。出席率75%以上。 1: 内容が整はず、生徒の取組みも良くなかった。出席率65%以上。	4	●総合学習や特別活動の年間計画を教員全体でしっかり検討して実施している。総合学習では将来の就職に関する工場見学を入れたり、自己や他の生徒を知ることができる生活体験の作文の発表を行っている。 ●各種ビデオ(生活体験、職種紹介等)、ガラス体験、キャリアセミナー、ボランティア活動等生徒が興味を持って取り組める内容になっており、生徒は興味・関心を持って各行事に積極的に参加していた。					
		・授業の理解を発展させるために生徒の資格取得を積極的に支援する。	資格取得の件数が、1人当たり年間で 4: 2件以上 3: 2件未満 2: 1件未満 1: 0.5件未満	3	●資格取得の生徒目標は1件/年ということで、各資格にチャレンジさせている。今年度は資格取得延べ数が32件となり昨年度を上回った。1人当たり1.3件である。 ●ほとんどの生徒が何らかの資格を取得しており、今後資格取得を継続するよう指導していきたい。					
生徒指導	基本的な生活習慣の育成を図る。	・頭髪、服装指導を徹底する。	頭髪、服装指導の再指導を要する生徒が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 30%未満 1: 30%以上	2	●再指導を必要とした生徒は全体の4分の1程であった。多くはベルトを着けていなかったり、頭髪が若干長かったりして指導を受けた。 ●指導を受けた生徒は全員が適切に対応した。	・学校で、社会性や社会人としての基礎を学ぶことができている。	4			
		・時間厳守の意識をもたせる。	授業開始時刻を守れなかった生徒が年間で概ね 4: いなかった。 3: 数名いた。 2: 半数程度いた。 1: 多くいた。	3	●授業の中抜けや早退はほとんどなかったが、若干遅刻する生徒が見られた。遅刻した生徒と面談をするなどの対応を引き続き行い、時間厳守の意識を醸成したい。					
		・教室等の美化や備品等の整理整頓を意識させる。	教室等の整理整頓ができた日が年間で概ね 4: 80%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	4	●ゴミの始末や教材等の管理について、学級担任を中心に指導した。 ●自分の持ち込んだゴミは原則持ち帰るというルールが、定着しつつあると考えられる。					

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
(生徒指導)	育てたい生徒像を意識した指導を行う。	・生徒指導部会を年10回以上行い、生徒情報や生徒指導に関する最新の知見を共有する。	4: 部会を10回以上実施し、生徒情報及び最新の知見を共有することができた。 3: 部会を10回程度実施し、生徒情報を共有することができた。 2: 部会実施は10回に満たなかったが、生徒情報を共有することができた。 1: 実施できなかった。	4	●今年度から生徒指導部会を「生徒情報交換会」とし、全教員が参加することとした。 ●年間10回開催した。うち3回はケース検討会とし、外部関係機関と連携した情報交換を行った。	・全教員で定時制の生徒について理解を深めている。 ・生徒指導のきめ細かさにつながっている。	
		・登校時の見守り指導の充実化を図り、生徒一人ひとりの変化に気を配り、問題行動の早期発見、未然防止に努める。	登校時の見守り指導の頻度は生徒出校日数の 4: 100% 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	4	●全教員が登校時の見守りに参加し、ほぼ毎日指導を行うことができた。 ●今年度は週1回程度、下校時にも見守りを行った。来年度も引き続き実施したい。		
	交通安全の意識向上を図る。	・自転車、原付自転車での通学生徒に対し、安全点検の実施、正しい乗り方の指導をする。	4: 通学生徒の100%が安全点検を受け、サマースクールに参加し、交通事故は発生しなかった。 3: 通学生徒の100%以上が安全点検を受け、サマースクールに参加した。 2: 通学生徒の70%以上が安全点検を受け、サマースクールに参加した。 1: 安全点検を受け、サマースクールに参加した生徒は70%に満たなかった。	4	●自転車及び原付通学者全員が安全点検を受けた。サマースクールにも全生徒が参加し、運転技術の向上とともに、交通ルールの確認を行うことができた。 ●今年度は1件の交通事故が報告された。事故後の対応等についても継続して指導を行う必要がある。		
進路指導	生徒一人ひとりの進路について関心を高め、勤労観・職業観の育成を図り、ミスマッチのない進路選択ができるよう取り組む。	・LHRや各種行事での進路学習、個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高揚させ、早期に具体的な進路目標を持たせる。	全学年の生徒において進路希望「未定」が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 40%未満 1: 40%以上	3	●冬休み明けの進路希望調査に於いて、1・2年生も含めて「未定」の生徒がほぼゼロであった。クラス担任をはじめ、各教員の指導の成果であろう。ただし、希望の実現の可能性等、見通しの甘い生徒も多く、今後、さらに個別指導を進めていく必要がある。	・卒業生全員の進路が決まるように、粘り強い指導を望む。	3
		・卒業学年生徒一人ひとりの希望に添った進路の獲得ができるよう支援する。 (進路相談の充実、応募前職場見学・オープンキャンパス等への参加の奨励、筆記試験対策・応募書類作成支援・面接指導の充実、不合格生徒等への「あきらめさせない」支援の継続)	卒業学年生徒において 4: 全員の進路が12月末までに決定 3: 全員の進路が2月末までに決定 2: 全員の進路が3月末までに決定 1: 3月末までに進路先を決定できない者がいた	3	●6名の就職希望者(求人票による者4・自己就職1・自衛官1)については10月中旬に内定、進学希望者(西部校等産業技術学校1)も11月中旬に合格することができた。 ●ただし、1名の生徒が、正社員での就職に向けた意欲が乏しく、「アルバイト継続」のままとなっていることや、早期に内定できた者についても、主体的・計画的に就職活動ができなかった場面があったことは大きな課題である。		
特別活動	学校行事や生徒会活動を通して活力ある学校づくりに取り組む。	・小工祭、定通体育大会、生活体験発表会、クラスマッチ、クリーン作戦、新入生歓迎会、卒業予餞会などの活動を通して、生徒の自主性を育成する。	4: 98%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が活発に行われた。 3: 88%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 2: 78%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 1: 参加した生徒は78%に満たず、取組は停滞していた。	4	●参加率は95.9%。長期的に欠席する生徒の影響で例年より低下。 ●小工祭では、ベビーカステラの調理・販売や手作りゲームと景品の提供などを通して、明るく献身的に来場者をもてなし交流を深めた。 ●定通体育大会やクラスマッチ等の体育的行事への関心は高く、放課後に自主練習を行ったり、行事実施時の準備・後片付けにも全員協力して取り組んでいる。 ●クリーン作戦、新入生歓迎行事(レクリエーション、会食)においても、多くの生徒が積極的・協力的であり、生徒会役員を中心に円滑な運営が図られた。	・学校の魅力として、さらなる充実を望む。	4
業務改善	学校の組織等		4: 業務一覧を作成し、業務の見直しを図り、全職員が業務改善を実感した。 3: 業務一覧を作成し、業務の見直しを図り、70%以上の職員が業務改善を実感した。 2: 業務一覧を作成し、業務の見直しを図れたが、業務改善を実感した職員は70%未満であった。 1: 業務一覧を作成し、業務の見直しを検討することができた。	3	●担当業務での経験をふまえ業務の精選が図られている分掌もある。 ●教務主任の交代に伴い業務一覧の作成により業務の把握はできたが、業務改善までには至っていない。 ●円滑に業務を遂行するために、業務の把握と見直しに取り組む必要がある。	・業務改善が授業の室の向上につながることを期待する。	4
	校務分掌の見直しと改善	・各分掌の年間業務・月業務を調査し、業務の見直しと協働体制の確立を図る。					
	日常的な業務		4: 会議の90%以上が1時間以内で実施した。連絡会や分掌内の連携が極めて有効に機能している。 3: 会議の90%以上が1時間以内で実施された。連絡会や分掌内の連携が有効に機能している。 2: 1時間以内の会議は90%未満である。連絡会や分掌内の連携は機能し、会議は縮減されている。 1: 1時間以内の会議は90%未満であり、連絡会や分掌内の連携がさらに必要である。	4	●資料の事前配付、口頭からペーパー化などにより時間の短縮を実施できた。 ●担当者間で事前協議など円滑に行われ、教員間の連携が図られている。		
	各種会議の精選と効率化	・日々の連絡会を有効に活用しながら、協議すべき事項と連絡・報告の整理をする。					
	勤務状況		健康診断再受診者の受診率向上及び時間外業務時間前年度比削減 4: 受診率及び業務時間削減者ともに100% 3: 受診率及び業務時間削減者ともに90%以上 2: 受診率及び業務時間削減者ともに80%以上 1: 受診率及び業務時間削減者ともに80%未満	4	●健康診断再受診者の受診率は100% ●時間外業務時間前年度比削減は全員達成 ●全体のみならず、一人ひとりに対する状況把握及び積極的な声掛けの実施などにより達成できた。		
地域連携	地域に対する教育活動の周知	・各種行事を広報・公開し、地元紙・広報誌などと連携して、積極的に地域に発信する。	連携した件数(延べ数)が 4: 10社以上 3: 7社以上 2: 5社以上 1: 4社以下	1	●学校行事、総合的な学習の時間、公開授業受講生募集など、のべ4社との連携にとどまった。 ●新しい取組や積極的な広報により地域への発信を推進する必要がある。	・小中学校の運営協議会の委員にも発信できるものがあると関心が高まるのではないかと。 ・中高連携や地域貢献も充実している。	4
	近隣の中学校に対する教育活動の周知	・近隣中学校の授業公開参観や学校説明のための中学校訪問及び本校の授業公開の通知を行い、中高連携強化を図る。	連携した中学校数(延べ数)が 4: 40校以上 3: 30校以上 2: 20校以上 1: 19校以下	4	●中学校に向いて行う進路説明会は例年どおり実施した。 ●中学校からの問い合わせに関しては、個別に対応した。 ●公開授業参観については、問い合わせ、来校者数ともに増加した。 ●中学校への授業参観を積極的に取り組んでいきたい。		
	学校と家庭、地域社会との連携の強化に努める。	・「総合的な学習(探究)の時間」・「特別活動」等の時間を活用して、地域の伝統産業理解や工場見学等、地域と連携した学習に取り組む。	目的を理解し、内容に満足していると答えた生徒が 4: 95%以上 3: 75%～95%未満 2: 55%～75%未満 1: 55%未満	4	●地域の伝統産業理解や工場見学では、生徒が積極的に取り組み姿勢が見られた。 ●高い満足度を維持しており、今後とも拡充・発展させたい。		
	よりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育てる。	・校内あるいは、地域のボランティア活動や体育的・文化的行事へ積極的に参加する。	地域のボランティア活動や体育的・文化的行事に参加した回数が年間で 4: 5回以上 3: 4回 2: 3回 1: 2回	4	5月: 地元の住吉まつりに参加(神輿かつぎ)。 6月: 「小さな親切運動」きららビーチ焼野海岸清掃。 8月: 「愛は地球を救うチャリティ募金」活動に参加。課題研究製作のイカダでレースに参加(デザイン賞4位)。老人ホーム清掃ボランティアを実施。 10月: クリーン作戦(通常コース)を実施。 11月: 老人ホーム文化祭に調理・販売ボランティアで参加。8月にあいサポーター研修を受講した生徒会有志が「うべそまつり」に参加。 12月: 市駅伝に教員と共に一般の部で出場。		
6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
【チャレンジ目標】 ◎出席率 94.5%であり、99%には届いていない。長期欠席(20日以上)の生徒3名及び10日以上欠席生徒4名。段階的及び継続的指導により登校はできているが、欠席の減少へととは結びついていない。 ◎資格取得 全校生徒24人中22人が資格取得した。目標に到達できるように、次年度へ向けて受験情報の提供及び指導支援を行っていく必要がある。 【成果(主なもの)】 ◎ロボット競技大会では、県大会において決勝トーナメントに進出。全国大会への出場はかなわなかったが、継続的に結果を出している。新しいメンバーの育成が必要である。 ○生徒と教員が協働して取り組む活動が充実した。(冬のクラスマッチにおける豚汁の共同調理、市民駅伝への生徒・教員合同チームとして参加、市マラソン大会への出場など) ○新たな取り組みとして外部講師招聘(小野田ライオンズクラブ、県トラック協会、厚労省の進路指導事業など)及び外部行事への参加(宇部総合支援学校文化祭)などを実施し、生徒からも好評を得た。 【課題(主なもの)】 ●欠席の主な要因となる体調不良の減少へ向けて、基本的な生活習慣の育成 ●スマホやゲーム、SNSとの関わり方を自己管理する力の育成 ●業務改善を中心とした教員の働き方改革の推進							
7 次年度への改善策							
【学習指導】 新学習指導要領の内容の周知を図り、本校定時制教育の良さを一層生かす観点で、教育課程編成、改訂内容に関する研究等について、具体的な取組を始める。 【生徒指導】 基本的な生活習慣(睡眠時間、食生活、健康管理、安全安心)の育成を図る。 学校行事、総探・総学、校外活動を通して、生徒の自己理解を促進し、自己有用感、自己効力感を高める指導に取り組む。 【進路指導】 各学年に応じた進路意識の向上に努め、段階的継続的支援による一人ひとりに対応したきめ細かい指導をおこなう。 【特別活動】 体験型、参加型活動のさらなる充実、生徒と教員が協働して取り組む活動のさらなる充実を図る。 【地域連携・業務改善】 学校運営協議会の仕組みをさらに生かし、学校の教育力向上、学校運営に関する自己点検機能の強化を図る。 地元企業、近隣中学校、報道機関との連携を深め、定時制教育のさらなる周知と課題解決に努める。							